別紙１　令和５年度普及活動成果

イチゴ新規生産者への栽培支援

要約

新規生産者が地域に定着し、南部地域におけるイチゴ栽培の新たな担い手となることを目指し、取組を実施した。技術指導と生産者の組織化支援を行った。

現状(背景)と課題

- 管内のイチゴ生産者の約半数は 60 歳以上。
- 新規生産者の多くは他部門からの 参入や新規就農者であり、栽培に関する知識や技術などが不足している。
- 知識量と技術力の向上は経営の安定のために必須。
- 生産者が地域に定着するために、技術力向上による経営の安定を図る。
- (仮称) 五條・吉野いちご研究会の活動で管内の他の生産者との交流を図る。

目標

- 育苗の安定化
  良苗率（クラウン径 6mm 以上の苗）80%
- 販売の安定化
  収穫量（収穫開始～3 月末まで）　2.9t/10a

活動内容

（育苗の安定化）
- 現地巡回指導（24 回）、良苗率調査（4 回）。

（生産の安定化）
- 現地巡回指導（24 回）、販売量調査（4 回）。

（生産者間の交流）
- 五條・吉野いちご研究会勉強会（3 回）。

成果

育苗の安定化について、育苗技術が向上し目標を達成した。
管内唯一のイチゴ生産者団体である五條・吉野いちご研究会が R5 年に正式に発足した。
会員間の交流が活発に行われている。

五條・吉野いちご研究会勉強会

現地巡回指導

南部農林振興事務所農業振興課
担当：担い手・農地マネジメント係　小走・厚見・芳田
農産物ブランド推進係　鈴木

普及活動のポイント

・令和５年７月まで管内にはイチゴ生産者の組織が無く、南部農林からの指導がイチゴ新規生産者にとって数少ない栽培技術向上の手段。
・組織化は情報の共有、関係機関からの情報伝達をスムーズにするために重要。

対象の変化

・育苗技術が向上し、育苗率の目標を達成した。
・五條・吉野いちご研究会に参加しており、会員と活発に交流している。

対象者からのコメント

・五條・吉野いちご研究会で、近隣の生産者と情報共有できる場ができた。研究会員間で互いに圃場を訪問し情報収集に励んでいる。勉強会も積極的に参加したい。

これからの活動ビジョン

・五條・吉野いちご研究会の取組を支援し、共同出荷や網室の整備等の産地基盤強化に繋げていく必要がある。

活動体制

南部農林振興事務所 → 情報提供・技術指導 → 五條・吉野いちご研究会　R5年発足

⇕ 連携

農業研究開発センター

農業水産振興課

担い手農地マネジメント課

用語解説

クラウン
イチゴの茎のこと。
ここに葉と根が着生する。